

[2015年度大学院入学選考]

薬学専攻博士課程／薬科学専攻博士後期課程

夏季募集期間：2014. 7. 11～7. 25、試験日2014. 8. 22

冬季募集期間：2015. 1. 6～1. 14、試験日2015. 1. 30

詳細は追ってホームページに掲載予定

私の薦める、私の一冊

一般教育分野 准教授 今井 千壽

内田樹・中田考著 『一神教と国家 イスラーム、キリスト教、ユダヤ教』 集英社新書 2014年

思想家内田樹氏と、イスラム学者でありイスラム教徒でもある中田考氏による対談集。「イスラム圏って自分とは無縁だし、関心ない」「イスラム教はちょっと怖い」などと思っている人には是非読んでもらいたい一冊である。きっと「目から鱗が落ちる」発言があるはずだ。日本語で書かれたイスラム関連の書籍は数多存在するが、実情を熟知したイスラム教徒の視点からのものは稀有で、その意味でも一読の価値があるだろう。

本書は、一面において、9.11以降広まったイスラム＝過激・テロという単純な図式からは見えてこないイスラム本来の姿を教えてくれる、格好の入門書である。イスラムの戒律は実はそれほど厳しくない（日本の方がよほど煩雑）、紙幣や電子マネーは偶像崇拜につながるのでは認められない、などのトリビア的情報も満載である。が、それだけにとどまらず、一神教についての検討から、衝突が続く中東の混乱に関する分析、さらには、国境や国民国家の間

題、カリフ制の復興、アメリカ主導のグローバリゼーションとそれに対抗するイスラム圏のグローバリゼーションのあり方にまで話は及び、非常に密度の高い内容となっている。しかも、それでいて、非常に読みやすく、かつ面白い。

現代が多様性に満ちているにもかかわらず、専ら欧米のバイアスがかかった視点から世界を捉えることに慣らされている我々の既成概念を本書は覆し、多角的なものの見方の重要性を再認識させてくれるだろう。中田氏は『青春と読書』3月号(集英社)で、「この時代、世界は複雑である、ということ学べる本を読む必要がますます高まっているように思う。」と書いているが、本書がそのような本の一つであることは間違いない。



図書館内に新設された本紙推薦書コーナー